



国民の森林・国有林

中部森林管理局

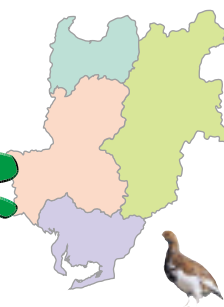
〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



森太郎を前に収録 田中森林官、木竜アナ他

テレビ番組を活用して 国有林をPR

(P2に関連記事)

主 な 項 目	○ テレビ放送を利用した国有林PR P 2
	○ 緑化行事 P 3～4
	○ 風景紀行 P 10



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

テレビ放送を利用した



【広報】 中部森林管理局では、「美しい森林づくり推進国民運動」の一環としてテレビ番組を活用して、森林・自然の動きと重要性、国有林の仕事内容とその必要性・重要性を子供が見ても分かりやすい番組を制作して P R することを目的に、テレビ信州と契約し番組制作をすることとしました。

番組制作に当たり、国有林の働き、カラマツ林・ブナ林・木曽ヒノキ林の紹介、治山事業の説明、高山植物等保護、森林官の仕事など、各回ごとに P R テーマを決め、シナリオ、台本を作成しました。

撮影は、六月十三日から北信署管内の鍋倉山とカヤの平自然休養林から始ま



第 2 回目を収録する大橋森林官

り、テレビ信州の木竜亜希子アナウンサーと林太郎くん（マペット人形）、それに田中・大橋両森林官がそれぞれの管轄でブナや自然休養林、郷土の森、FFGなどを分かりやすく説明し、二回分を収録しました。

放送は、テレビ信州で七月一日から毎週日曜日の十一時四十五分から五分番組で二十六回放送されます。

「美しい森林づくり」を目指して
「のびのび 郷土の森」がスタート

【飛騨署】北アルプス乗鞍岳の飛騨側に広がる広大な森林帯を地元では「五色ヶ原」と呼んでおり、豊かな植生や生態系が保たれるとともに、溶岩台地が作り出す地形と豊かな伏流水は、多くの滝や池として貴重な自然景観を形成しています。

高山市では「この貴重な自然を保護しながら利用する」新しい試みを平成十六年にスタートさせ、有料ガイド同伴のツアーに取り組んでいます。

この地域には市有林などとともに乗鞍国有林がその多くを占めており、高山市からその一部（六一五鈔）を保護林制度における「郷土の森」として保護と利用を図りたいという希望が出され、平成十八年十二月一日に「のびのび 郷土の森」の保全協定を締結しました。

市では「五色ヶ原」が平成十九年度の



除幕をする小椋局長、土野高山市長ほか関係者

オープンとなる五月二十日に、協定を記念する式典を開催、中部森林管理局長、高山市長を始め多くの関係者が参加しました。

式典では小椋局長が祝辞を、土野高山市長からは協定の意義が話され、記念の協定証書を交換、続いて協定を記念し林野弘済会名古屋支部から高山市に寄贈された乗鞍岳と山麓をイメージした石碑の除幕が行われました。

ツアー参加者は「記念写真を写す良い場所ができた。」と、早速記念碑の前で市長、局長と記念写真を写すなど、新たなオープンを楽しんでいました。

保全協定は、適切な保護と利用に向けた環境調査を始め地域振興の効果などについて検証する目的をもっており、今後、高山市とともに飛騨森林管理署も協力し「美しい森林づくり」の一環として取り組むこととしています。

なお、「五色の森」と記された石碑の文字は、小椋局長の揮毫によるものです。

「美しい森林づくりワーキングチーム」の設置について

【企画調整室】「美しい国づくり」に寄与する「美しい森林づくり」を実現するためには、適切な森林整備・保全、国産材利用、森林を支える活き活きとした地域づくり、都市住民・企業等の森林づくりへの参画などの取り組みを幅広く国民の理解と協力のもと総合的に推進していく必要があります。

このため、関係府省庁の連携を図り、政府一体となって「美しい森林づくり推進国民運動」を展開していくこととされたところです。

この運動を中部森林管理局においても積極的に推進するため、四月十七日にチーム長（総務部長）、副チーム長（計画部長、森林整備部長）、チーム員（関係各室課長）、事務局（企画調整室）とする「美しい森林づくりワーキングチーム」を設置しました。

ワーキングチームは、設置以降、今までに二回の打ち合わせを行い、過日各署等へ通知した「中部森林管理局における『美しい森林づくり推進国民運動』への当面の対応について」を基本に、具体的な推進方法等の検討を行っています。

また、管内の各県との連携による中部局のホームページを活用した「木の文化の伝承」に関する情報の発信、カートカン、名刺等間伐材を利用した紙製品の積

極的な使用の推進等を行うことも検討しています。

この運動の展開に当たっては、職員一人一人が発案者となって住民の皆様や団体、地域等の連携を図りながら、新たな発想や各種の事業を遂行するなかで推進していくことが必要であると考えていることから、積極的な取り組みと協力をお願いします。



赤沢自然休養林の木曾ヒノキ美林

第四十六回高山植物等

保護対策協議会総会を開催

〔国有林野管理課〕六月十三日、中部森林管理局大会議室において、平成十九年度「高山植物等保護対策協議会」（高植協）の総会を開催しました。

高植協は、長野県内の国有林並びに民有林における高山植物等の保護と地域内の美化を目的に、中部森林管理局、環境省、長野県の行政機関や報道、交通、教育、観光、山岳等の関係団体で構成されています。

総会には、長野県バス協会や長野県自然保護連盟など二十五名が出席し、河本長野自然環境事務所長の挨拶に続き、平成十八年度事業、会計の報告及び平成十九年度事業計画、予算案を提案し審議しました。事務を務める当局からの事業報告では、本年度からプロジェクターを使用し、区域別の違反内容や過去五年間の違反内容等はグラフ化を行い出席者やマスコミに解りやすく努めました。

五地区の協議会からの報告では、平成十八年度の県内自然公園への入り込み者数は前年比九十八割の一二九八万人でした。違反に対する指導件数は、高山植物無許可採取、摘み取り、踏み荒らし等、二二六七件と昨年比八十二割で、踏み荒らしの増加以外は、微増及び減少でした。

近年、南アルプスではニホンジカの食害によるお花畑の消滅が問題になっており、今後の課題として出されたのは、

- 一 植物の盗採、採取防止
- 二 踏み荒らし、立入禁止区域への侵入防止
- 三 ペット持込の自粛推進
- 四 高山蝶の採取防止
- 五 ニホンジカ、猿による高山植物の食害防止

審議の中では、ペットの持ち込み者に対する指導の質問やニホンジカの食害への対応を求める意見が出されました。

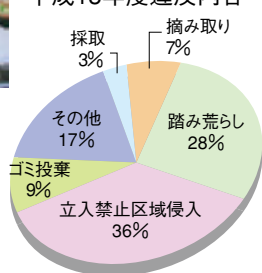
高山帯へのペットの持ち込みは禁止する法的規制が無く指導に苦慮したことから、平成十八年度に本協議会で持ち込み者に対する自粛のお願いの事例を作成し、保護指導員への参考としました。ニホンジカ対策は、被害調査を進めるとともに関係機関へ対策を働きかけていきます。

- 一 高植協の平成十九年度の事業計画は、高山植物等の保護思想の高揚
- 二 高山帯へのペットの持ち込み自粛への指導
- 三 保護パトロール強化及び強化週間の実施

等を目標に、あらゆる機会や場所での積極的な保護活動を進めていくことで承認されました。

また、テレビ局四局、新聞社六社が取材に訪れ報道されたことから広域的な啓発が図られました。

平成18年度違反内容



総数 2,367件



会議の様子

緑化行事

「植えよう 緑と笑顔の ハーモニー」 愛知県植樹祭

〔名古屋事務所〕五月十九日、愛知県植樹祭が「植えよう 緑と笑顔の ハーモニー」(岡崎市民から公募標語をもとに決定)をテーマに、岡崎市内で、関係者約千人が参加して開かれました。

午後一時三十分から、岡崎南公園で記念植樹が行われ、オオシマザクラを始め八種類七二〇本の若木を植えました。

植樹後の式典は、アイプラザ岡崎の会場に移し、岡崎高校コーラス部の合唱や警察音楽隊の演奏のあと岡崎市副市長の開会のことで式が始まりました。主催者の神田愛知県知事らの挨拶のあと、林野庁次長等による「美しい森林づくり推進国民運動『全国キャラバン』」が行われ、「森林が、「美しい国、日本」の礎になるよう国民運動を展開しています。この運動を多くの国民の皆様にご理解、ご賛同いただくため、全国的なPR活動を行っています。」と挨拶されました。

その後、緑化関係労者の表彰があり、各関係団体の代表者に表彰状が送られました。

次いで、岡崎市内みどりの少年団の代表による「みどりの誓い」、緑の大使マリクリスティヌさんによる「みどりの宣言」が行われました。マリクリスティ

今回は、「美しい森林づくり推進国民運動」のキャラバン行動として、農林水産事務次官の出席が予定されていましたが、急遽欠席となり、小緑局長が代理として、「美しい森林づくり推進国民運動」参加への三つのお願いを話され賛同を呼

びかけました。式典終了後、小緑局長は少年団員と一緒にウラジロガシを記念植樹し、知事らとともに各展示コーナーを見学しました。少年団員と一般参加者は、五月晴れのもとツツジやサツキを五五〇本植樹したほか、育樹作業として下刈作業にも汗を流しました。

豊かな森を未来に 「とやま森の祭典」

一ヌさんの提案により参加者全員が起立し、「一緒に「みどりの宣言」を読み上げることとなり、会場が盛り上がりま



植樹をする小林名古屋所長



子供達と植樹をする小緑局長

「いい思い出になりました。」という言葉

残し、思い思いの自信作を手会場を後にしました。

「未来世紀につなぐ 緑のバトン育樹祭」の開催

【木曽署・ふれあいセンター】長野県西部地震の災害跡地に、木曽川上・下流住民が力を合わせて緑を再生する「未来世紀につなぐ緑のバトン育樹祭」（王滝村、中日新聞、独立行政法人水資源機構、中部森林管理局で構成する実行委員会主催）を、五月二十六日、木曽郡王滝村柳ヶ瀬地区において開催しました。

この「未来世紀につなぐ緑のバトン」事業は、王滝村内で集めたドングリを木曽川上流域・中流域・下流域の住民の皆さんに配布し育てていただいた苗木を、地震災害復旧地に植樹して、回復の手助けをするとともに各流域住民間の交流を図るのを目指としています。

平成十三年度から平成十八年度まで六回の植樹祭を行ってきましたが、今年度は、これまでに植樹して育った木々の間に補植する作業で、育樹祭と位置づけました。

当日は、中部森林管理局からは箱石総務部長が出席したほか、地元住民と水瓶である牧尾ダムとつながる愛知用水土地改良区や関係団体、下流域等の愛知県、岐阜県、三重県からの一般応募者など約二百五十名が参加し、ミズナラの苗木約五〇〇を補植しました。



植樹する下流域の小学生（緑の少年団）と箱石総務部長

開会式では、実行委員長の水滝村長より主催者挨拶、箱石総務部長より歓迎挨拶があり、更には、木曽川の恩恵を受けている下流域の首長から水源地である王滝村に対しお礼の言葉が述べられるなど、緑の再生や豊かな水の醸成と上・下流交流促進の強い願いが感じられる式でした。

現地は、地震でできた土砂堆積地で、参加者は、唐鍬で植え穴を掘るにもなかなか大変な作業でしたが、職員の植樹指導のもと、植え穴に培養土を入れて土壌を改良し、豊かな森になるようそれぞれが願いを込めながら丁寧に植え付けを行っていました。

作業終了後、地震災害復旧地の「国民の森」等への見学会も行い、緑が甦った復旧地を見渡せる展望台で、職員が復旧概要等の説明を行い、森林の役割や治山事業の重要性について理解を深めていただきました。

各地からのたより

東殿山で市民が森林浴を満喫！

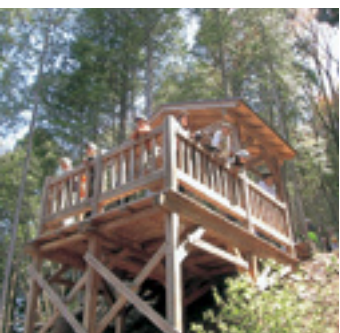
市民歩け歩け大会を開催

〔岐阜署〕四月二十九日、昨年に引き続き東殿山国有林で郡上市民歩け歩け大会が開催されました。参加者、約八十名の市民とともに、地元ケーブルテレビも取材に同行し、乙姫谷側から登山を行い、約一時間半で山頂の東屋に到着しました。

当日は晴天に恵まれ、眼下の郡上八幡の町並み、遠くには白山連邦を望むことができ、参加者らは大満足の様子でした。山頂での昼食後には、室町時代から戦国時代郡上地域を支配していた東氏山城、赤谷山城跡まで足を延ばし、古い石積みなどから歴史探訪を行い、下山しました。

参加者からは「歩道を整備してもらえた。」「コウヤマキの大きさを、こんな近くで見れて本当によかった。」等の感想が聞かれました。

庄川事務所時代から地元要望を受け、当署で整備した国有林で市民からこんな声が聞けたことを嬉しく思いました。



景色を楽しむ参加者

森林ボランティア

活動の意見交換会

「登山者のマナー向上を」

〔岐阜署〕岐阜市の中心部に位置する金華山国有林で、登山道整備などの森林保全管理に取り組む、森林ボランティア活動の市民団体と岐阜森林管理署、岐阜市が活動のあり方を話し合う「森林ボランティア活動意見交換会」が五月十日、関係者ら二十三名が出席して岐阜森林事務所で開催されました。

金華山でボランティア活動を行うのは、岐阜森林管理署の認定を受ける「十時会」と「金華山サポーターズ」の二団体。意見交換会は、前年度の取り組みで挙げた課題を本年度の活動に役立てようと、年に一回開催しています。

ボランティア団体からは、「山の荒廃を防ぐ」とマナー看板を設置しているが不法投棄が後を絶たない。」「金華山ドライブウェーで後を絶たない大型ゴミの不法投棄防止対策として、ドライブウェーの開放時間を夜二時間縮めてはどうか。」などマナー向上を訴える意見が出たほか、「金華山に関する岐阜市の窓口を一本化できないか。」などの要望が出されました。

岐阜市からは、植生の荒廃が心配される馬ノ背登山道については、「七曲がり登山道など道のしっかりしているコースに誘導する方法はないか。」などの問題



会議の様子、挨拶する坂元岐阜署長

提起もありました。

岐阜森林管理署からは、平成十八年度の実施内容、平成十九年度の実施計画のほか、金華山国有林内にある防火用水槽に人為的な穴開けの被害が出ていること、「第十九回森林レクリエーション地域美化活動コンクール」で、「十時会」が林野庁長官賞を受賞したことも報告しました。

下呂市と協働で

大平展望台を修景整備

〔岐阜署〕五月二十四日、岐阜森林管理署は「美しい森づくり」の一環として、下呂市と協働で大平展望台（落合国有林 55 林班）の修景整備を行いました。



作業をする参加者

大平展望台は岐阜県側から御嶽山を望む絶好のビューポイントですが、設営以降、周囲の樹木が生長し以前ほどの眺望を望むことが出来なくなったため、下呂市と署員約二十人で作業をしました。

修景整備では、御嶽山の視界を阻むヒノキなどの伐採、笹の刈り払い、老朽化した看板、椅子、テーブルの補修、ゴミの收拾などを行いました。

当日は、天候に恵まれ、少々暑い中でしたが、作業終了後、参加者は眺望の良くなった展望台から御嶽山を眺め、整備後の成果を実感していました。

これから御嶽山の山開きを間近に控え、登山者やドライバーの休息地点としてホッとすると展望スペースとして喜んで貰えば幸いです。

「夜叉ヶ池ボランティア パトロール」二年目をスタート

〔岐阜署〕六月三日、岐阜県・福井県の両県に跨る夜叉姫伝説で知られる夜叉ヶ池の山開き・安全祈願祭が坂内観光協会主催で行われ、岐阜森林管理署から四名が参加しました。

神事には一二〇年前からの伝説「雨乞いのため、池の龍神に娘を嫁がせた安八太夫」の四十七代目の石原傳兵衛さんも出席し、約五十名の関係者らで厳粛に執り行われました。

神事終了後、夜叉ヶ池を目指し一時間四十分（約三・五キロメートル）、新緑のブナ林をくぐり抜け山頂を目指しました。途中には幽玄の滝、昇竜の滝や勇壮な夜叉壁があり、最後の急峻な尾根を登りきると紺碧の水を湛える夜叉ヶ池が現れました。

湖畔には両県から約四五〇名の登山者で賑わい、神秘的な湖にしばし感動していました。



夜叉ヶ池を目指して家族連れの姿も

池には世界中でここにしか生息しない、国内希少野生動植物（絶滅危惧種ⅠA種）に指定されているヤシヤゲンゴロウが生息し、近年の調査データでは生息数の減少が報告されています。こうした状況の中、夜叉ヶ池周辺一帯の環境を守る活動が福井森林管理署と協働で行われています。岐阜森林管理署もこの山開きに併せ、二年目を迎える「夜叉ヶ池ボランティアパトロール」をスタートし、保護・保全活動を始めました。

「水無湿原観察会」

〔富山署〕六月五日に、ブナの新緑が鮮やかな南砺市の水無国有林で当署のボランティア隊員や地元自然解説員らでつくる「利賀飛翔の会」、「県自然保護協会」会員など五十名が参加して、水無湿原の観察会を行いました。

水芭蕉の一大群生地として知られる標高一四〇〇以上に広がる湿原は、水芭蕉やリュウキンカ・サンリンソウ・オオバキスミレなどが見ごろを迎え、参加者には植物に詳しい方が多く、それぞれグループを作り、解説を聞きながら熱心に見入っていました。湿原にはこれまで一五〇種以上の植物が確認されていますが、今回も新しい種が確認されるなど、ますます魅力が増えそうです。

昼食時の話題提供や、午後からのブナ林内を散策でそれぞれの先生からの解説



観察会の様子

を聞き楽しいひとときとなりました。

参加者は、水芭蕉の花言葉「美しい思い出」を胸に、リュウキンカの花言葉「必ず来る幸福」に期待しながら名残惜しそうに帰路につきました。

水無湿原は、四季折々に多様な植物が見られますが、近年、乾燥化や灌木の侵入が進んだため、当署では平成十五年度から、地元南砺市やボランティア団体等と協力し、地域発案システムとして保全作業に取り組んでいます。

測定研修で森林官の スキルアップ！

〔岐阜署〕岐阜森林管理署では六月六・七日の両日において、岐阜市金華山国有林において森林官のスキルアップを図ることを目的に測定研修を開催しました。

森林官業務の測定業務には境界巡検、境界検測、境界検測予備調査など



トランシットを使って研修中

があります。検測や境界標の復元は測量技術としても熟練を要することから、なかなか現場で浸透しにくい技術でもあります。

また、不明標解消は平成十八年度末をもって一定の整理が図られましたが、山腹の崩壊、河川の氾濫、道路開設などで、今なお発生している状況です。

こうしたことを踏まえ、今回研修は境界標の復元、不明標の発見を重点に開催しました。

講師には名古屋事務所測定担当者、七宗森林官の指導により、各班に分かれ、基準線測量を実施しました。あまり扱わないトランシットの据付けに悪戦苦闘し、内業では成果が許容範囲内に入ると感嘆の声が上がりました。

今まで敬遠されがちな測定業務でしたが、今回の研修を機にトランシットの活用利用を広げて不明標の解消を始め測量技術の向上を図る良い機会となりました。

森林の大切さわかったかな？

「あおぞら教室」開催

【東濃署】六月の「土砂災害防止月間」中、岐阜県中津川市で市内の小学四年生を対象に、国交省多治見砂防国道事務所中津川出張所と「あおぞら教室」を計五回開催しました。

午前中は、国交省による砂防教室が行われ、子供達は土砂災害の恐ろしさや砂防事業の必要性について学びました。昼休みには、目の前にある川の中に入っで、服が濡れるのも気にせずびしょびしょになって遊ぶ姿を見て職員も子供時代を懐かしんでいるようでした。

午後からは、東濃署の職員が森林教室を行い、森林の働きと治山工事の話や実験を行いました。今回は森林官や治山事業所主任をはじめ、多くの職員が協力して行いました。ヘルメットや地下足袋を装着して子供達の視線を釘付けにした



水の流れはどうなるのかな？

語をかみくだいて説明するのに四苦八苦したりと、興味を持ってもらえるように皆それぞれ工夫していました。

実験では二つの植木鉢に土を盛って、片方はコケでおおって森林のある山に見立て、もう片方はそのままの木のない山を作りました。児童にじょうろで水をかけてもらって雨を降らせると、森林の働きが目で見えて実感でき、子供達はの違いに「ワー！」と歓声を上げていました。

最後には子供達の予想外の質問に戸惑いながらも、その柔らかい発想に感心させられるとともに、今日の体験で感じたことをこれからも大切にしていきたいと思います。

署長自ら出前教室

駒ヶ根ロータリーで

「森林の保全」について卓話

【南信署】五月二十八日駒ヶ根商工会議所において、駒ヶ根ロータリークラブの第四十八回（通算二四六九回）の例会が開催され、その中で卓話として「水はどこから」と題して出席者三十名余りに久保田署長が話をしました。

駒ヶ根ロータリークラブは、「お互いに信頼できる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係に発展するような仲間を増やしたい。」というシカゴで誕生した精神に則り、奉仕の理想を持って一九六〇年一月に三十五名の会員

で創立され、一時期七十名に及ぶ会員も四十一名となる中、親睦と奉仕を通じて明るい未来をもたすために各種の活動を展開しております。特に四十八年度は、地域での水保全とアフリカ等の飢餓について取り組まれており、その一環として毎週一回月曜に行われている例会に会員の研鑽を図る意味から、水保全について要請されたものであります。

卓話では、「水は、雨や雪によりもたらされ、高いところから、低いところへと流れ、川から海へ達する。その間に蒸発したり、農業用水、工業用水、生活用水として利用される。」とし、一連の流れを地域の山や川、水田等をスライドとして見せ、森に覆われた山と木のない山との比較から、森林の働きについて説明しました。そして、昔の人は「水を大切にすることは、山を大切にすることと同じ。山を切り尽くせば水も枯れる。」とし、田畑の上流の森林を水林あるいは田林として護ったと、水源の森百選も紹介し、水の保全は森林の保全から始まると力説しました。

また、元アメリカ副大統領アル・ゴア氏の『不都合な真実』による警鐘や気候変動に関する政府間パネルの報告、昨年七月の豪雨災害も交えて、昨今の地球温暖化による異常気象等にもふれ、間伐等森林整備の重要性と「美しい森林づくり」に民・国一体となって推進しており、国民参加の森林づくりへの参加・協

力も合わせて話しました。

会員からも、我々の命の水を確保するためにも、森に入り森林を大事にしていきたいとの声が上がリ、有意義な時間となりました。

御嶽グリーンサポートスタッフ

(GSS) 開始！

【岐阜署】六月十五日、濁河温泉管理組合主催の登山者安全祈願祭と下呂市主催の御嶽山山開きが御嶽神社飛騨口里宮で開催され、当署から三名が参列しました。

古くから信仰されてきた御嶽山は近年の登山ブームによりゴミの投棄、森林への踏み荒らし、高山植物の摘み取り、登山道の荒廃、低山帯植物の亜高山帯への侵入など多くの問題が発生してきています。



御嶽山、開山式の様子

今年度より御嶽山においても環境の保護・保全・啓蒙活動を目的に六月から十月にかけて『グリーンサポータースタッフ』Ⅱ（森林保護員）を配置して、御嶽山におけるきめ細かな保護・保全対策を実施することとした。

『グリーンサポータースタッフ』の配置は当署では金華山国有林に続き、二箇所目であり、六月十五日の夏山シーズンの始まりを告げる山開きにあわせて巡視を開始しました。森林保護員には五の池小屋管理人の市川さんをお願いし、濁河温泉から山頂までのルート及び山頂一帯の高山帯まで管理をお願いしています。

当日は安全祈願祭、山開きの行事に併せての活動開始となり、多くのマスコミも取材に訪れていました。

当初、天気は雨模様でしたが、獅子舞とはやし囃子が始まる頃には雨は止み夏山到来を祝福しているようにも思えました。

「美しい森林づくり」をPR 平成十九年度森林の市が開催

【指導普及課】 去る五月十二日～十三日

の両日、東京都日比谷公園において平成十九年度森林の市（主催…林野庁、国土緑化推進機構等）が開催されました。

全国各地から、七十一の団体が出展



家族連れでにぎわう中部局のブース

し、木工品や地域の特産品の即売、NPO団体の環境保全や森林づくりへの取り組み等のパネル展示等が行われました。

中部森林管理局では、「美しい森林づくり」に向けた取り組みとして、①公益的機能の発揮に向けた取組、②木材の供給、利用促進等の取組、③国民の森林としての取組、④森林環境の保全への取組等のパネル展示、チラシのほか、木製ペンダント、モックンづくり等の木工作品製を行いました。

二日間天候にも恵まれる中、会場には多くの家族連れ等が訪れ、中部局のブースにも木製ペンダントやモックンづくりに子供たちが集まり、友達や親とともに

楽しそうに作製に取り組んでいました。

また、パネル展示コーナーにおいては、中部局における「美しい森林づくり」の取り組みについて、職員が説明等PRに務めたところです。

この他、会場中央のステージでは、太鼓演奏やアルプホルン等の演奏、マジックショー等のアトラクションが行われ、来場した人々を楽しませるなど、大いに賑わいを見せていました。

「富士見町のアツモリソウ 保護シンポジウム」開かれる

【指導普及課】 六月二日、長野県富士見町において希少野生植物の「アツモリソウ」について町を挙げ保護するための「富士見町のアツモリソウ保護シンポジウム」が開催されました。

富士見町のアツモリソウは大型で濃い赤紫色の花を付け、かつては「釜無ホテイアツモリソウ」と呼ばれ、山野草として人気がありました。乱獲等により現在では絶滅寸前となつています。このため富士見町では、昨年町民が一体となりアツモリソウの保護に取り組んでおり、今年の五月には「富士見町のアツモリソウ保護条例」を制定しました。

保護活動の一環として開催されたシンポジウムでは、中部森林管理局から



パネリストの元島主任官

指導普及課元島技術開発主任官がパネラーとして出席し、全国的に先駆けて取り組んでいる、希少野生動植物保護管理事業（アツモリソウ保護管理）について、特に保護上の問題点、盗掘に対する課題、植生遷移、シカの食害などについて報告しました。

シンポジウムは、保護活動、増殖技術、生存するための環境等、幅広い意見が出されるなど、今後の保護活動に関心が寄せられていました。

シリーズ12 実験林・試験地等紹介

「木材チップ被覆試験」

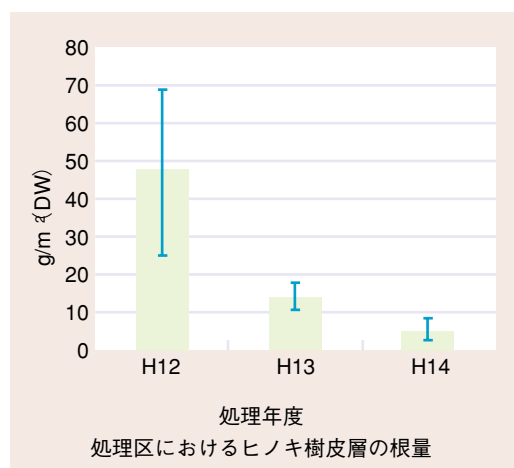


「森林技術センター」木曽の赤沢自然休養林は樹齢およそ三〇〇年のヒノキ天然林で、かつて伊勢神宮の遷宮の造管用材を供給する神宮備林として、また学術参考保護林・大材保存林として研究・保存を目的に厳重に保護されてきました。

昭和四十四年には全国初の自然休養林に指定され、現在も「ヒノキ林木遺伝資源保存林」、「ヒノキ植物群落保護林」として保護・保存されています。このような恵まれた自然環境を背景にして、森林浴発祥の地である赤沢自然休養林を訪れる人は、年間十万人を超えるようになりました。

一方で、多数の来訪者が休養林を散策するようになったため、休養林の遊歩道は三十年の歩行者の踏圧や雨による浸食によって表土が失われ、さらに露出した根の表皮や細根の消失が著しく、ヒノキの樹勢の衰えが懸念されるようになりました。

このため、平成十二年から十四年度までの三年間に、延べ一五〇回の遊歩道において、ヒノキ根の保護を目的に木材チ



ップによる被覆処理を行い、平成十六年に被覆処理効果の調査を実施しました。

調査の結果、チップ被覆によって、被覆の下層であるヒノキ樹皮層に新たな根の発生が見られ、それは経時的に増加したことから（表参照）、被覆処理そのものによる根系への負の影響は見られなかったことが明らかになりました。

木曽森林管理署では、体験林業やボランティアなどにより、根の露出した遊歩道の被覆を進め、現在の施工距離は約一キロメートルに達し、散策に訪れた方々から「歩きやすくなった。」など好評を得ています。

近年、安らぎを求めて森林を訪れる人々の増加とともに、その森の象徴である巨樹・巨木の近辺にも多くの人が集まるようになり、人踏圧による環境の悪化や樹勢の衰えを危惧する事例が各地で発

生しています。森林と人との共生が求められている昨今、今回の試験結果がそうした弊害を緩和する技術の開発に役立つものと考えています。

◇所在地：長野県上松町

小川入国有林二二一林小班



施工前の状況



施工後の状況

管内囲碁大会を開催

【OB】第三十九回管内囲碁大会が五月十九日松本市勤労者福祉センターで開催されました。大会は現職員三名、OB二十六名が参加し、盤上に熱戦を繰り広げました。

旧名古屋管内からは女性棋士を含めて四名が初めて参加し、管内大会にふさわしい盛会となりました。

成績は次のとおりです。

Aブロック

優勝 植原増夫 五段（OB）

準優勝 三浦八雄 六段（〃）

三位 山谷勝次 五段（〃）

Bブロック

優勝 原 英毅 三段（〃）

準優勝 本井孝道 三段（〃）

三位 石田紀代子 4級

（名古屋事務所）





日本最高積雪の記録

野川に注ぐ、およそ二千
鈔のカヤノ平高原に降つ
た雨雪のごく一部と思わ
れますが、間断なく噴出
する量に感動と、その供
給源としての国有林を管
轄する者として誇らしさ
を覚えます。

村では十メートル程離れた場
所を再度掘削して現在の
温泉源を掘り当て、学問
の湯「北野天満温泉」と
して村の振興公社が運営

長野・山梨・埼玉に県境を接する甲武
信ヶ岳に源を発した千曲川が、信濃川と
名前を変える所が信越国境の栄村です。
村の総面積の九十三割が森林で、国有林
がその五十五割を占め、その大部分は良
質のブナを中心とした天然林です。

この地域は有数の豪雪地としても知ら

奥信濃



れ、昭和二十年二月十二日には、日本最
高の七メートル八十五センチの積雪を記録しまし
た。

村内を通過する国道一一七号線から分
かれ、新潟県を経由して再び長野県に入
り県道一一七号線を北野川に沿って八キ
ロメートル南下すると、北野という地域があり
ます。ここには名前のとおり、京都北野
天満宮の流れをくむ北野天満宮がありま
す。

学問の神様・菅原道真公を祀るこの神
社には受験の季節ともなると、県内外か
ら受験生が訪れ、合格祈願の絵馬を奉納
しています。

集落を流れる北野川の河原に湯脈があ
ることが確認され、温泉施設と北野天満
宮を結び付け地域の活性化を図る目的で
温泉を掘ったところ、毎分八トンという
大量の水が噴出しました。この水源は北



新潟県側から残雪残る佐武流山を望む



湧水堂内の噴出する水

しています。

大量に噴出する水は周辺一帯の公園施
設の一部、湧水堂として水を噴出し続け
ています。

ここから志賀高原、あるいは森林生態
系保護地域として原生的な森林植生が約
九千鈔にわたって残されている、佐武流
山登山口である秋山郷への通行ができま
す。

◆アクセス方法

JR 飯山線森宮野原駅から平日に限り
デマンドバスで坪野まで約三十分。
マイカーでは、国道一一七号線信越国
境宮野原信号機から県道を約二十分。
周辺の苗場山・鳥甲山登山、あるいは
志賀高原から草津方面へのドライブを楽
しむにはマイカーがお勧めです。

行事・会議等の予定

- ◎ 国有林野観光施設協議会総会
7月2日 長野市
- ◎ 治山課長会議
7月4日 長野市
- ◎ 全国安全週間
7月1～7日
- ◎ 国有林・民有林治山ヒアリング
7月10～11日 長野市
- ◎ 名古屋シティ・フォレスト事業
7月10日 富山署管内
- ◎ 森林ふれあい講座
7月19日 愛知所管内
- ◎ 森林パノラマウォーク
7月19日 東信署管内